

# プロジェクト進捗管理シート

## 方針3 「人」と「知」の基盤づくり

# 8 教育再生プロジェクト

～良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成～

総括マネージャー	教育長
----------	-----

### 目 標

子どもたち一人ひとりが、学力や体力、人間性などを身に付け、自らの人生を切り拓き、社会に貢献できる人材として育つとともに、県民誰もが生涯にわたる学びを通じて自己を磨き、豊かな人生を送ることができる教育県をめざします。

### 総 合 分 析

『良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成』をめざし、6つのアクションによりプロジェクトを推進しました。

達成目標12項目のうち、10項目が順調に推移しています。

『「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合』、『「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合』について、小学校では目標達成の目安値を上回って推移しており、30人規模学級によるきめ細かな指導に取り組んだ成果等によるものと考えられます。一方、同指標について中学校では「努力を要する」となっており、学力向上のためのPDCAサイクルづくりなど、各校で授業改善の意識が高まりつつあるものの、さらなる取組が必要と考えられます。

また、学校満足度、体力の向上、信州型コミュニティスクールの実施、就業体験活動の推進、英語コミュニケーション能力の向上に関する指標は、順調に推移しています。

これらのことから、プロジェクト全体の進捗状況は概ね順調ですが、中学校における学力の定着に課題が見られ、重点的な取組が必要と考えられます。

#### ～プロジェクト推進に向けての課題と今後の方向性～

子どもたちが個性や能力を最大限発揮し、社会に貢献できる人材として育つためには、基礎的・基本的な知識・技能に加え、実社会で必要となる実践力やコミュニケーション力を身に付けることが必要です。

課題が見られる中学生の学力については、授業の中で学力が確実に定着したかの確認が不足していること、家庭学習と授業との連携が不十分であることなどが要因と考えられます。

今後、30人規模学級（平成25年度に中学校全学年に拡大し、小・中学校全学年で実施）を活かした指導方法の改善、学力実態を確認しながら確実に定着するまで指導する仕組みづくり、授業と関連させた新たな家庭学習モデルの構築等、重点的な取組を行っていきます。



## 達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○順調:目安値以上 ○概ね順調:80%以上100%未満の進捗  
 ○努力を要する:80%未満の進捗 ○実績値なし:今年度実績値が把握できない  
 ・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値)

指標名	年度	単位	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
学校満足度(小学校)	目安値	%		90.7	91.0	91.3	91.6	92.0
	実績値		90.4	90.7				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制などによりきめ細かな指導や児童が分かる授業を目指した授業改善が進んできているため、子どもの満足度が順調に伸びてきています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	学習習慣・生活習慣の確立のため、30人規模の学級編制などによりきめ細やかな指導をさらに推進します。学力の向上のため、全国学力・学習状況調査等に基づく課題分析の実施や学習指導の基礎基本を示した「信州ベーシック」の普及などにより授業の質を向上させていきます。						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
学校満足度(中学校)	目安値	%		86.5	87.3	88.2	89.1	90.0
	実績値		85.7	86.6				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	30人規模の学級編制などによりきめ細やかな指導や生徒が分かる授業を目指した授業改善が進んできているため、子どもの満足度が順調に伸びてきています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	学力向上の基盤として人間関係を大切に学級づくりを充実させていきます。子ども同士で考え合う学習の充実や授業と関連させた家庭学習にしているための取組をさらに進めます。						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
学校満足度(高等学校)	目安値	%		76.2	77.2	78.1	79.1	80.0
	実績値		75.3	76.5				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	各高校において、生徒の能力、適性、興味・関心の多様化と希望進路の多様化に対応するためのカリキュラム編成や、双方向型授業の推進など、魅力ある高校づくりに取り組んでおり、目標達成に向け順調に推移しています。						
【目標設定理由】 現状を上回る順位を目標として設定	今後の取組	知識・技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した授業改善に引き続き取り組んでいきます。						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合(小学校)	目安値	%		62.4	63.1	63.7	64.4	65.0
	実績値		61.8	64.7				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	学力向上のためのPDCAサイクルの確立が進み、各校で授業改善の意識が高まり、一人ひとりの子どもに応じたきめ細かな指導が行われてきています。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	話し合う活動や説明する活動を授業の中に位置付けたり、授業の終末場面での「みどけ」を大切にしたりしていくことを、学校訪問等で伝えていきます。また、家庭学習の内容や方法を見直しながら「新たな家庭学習モデル創出事業」を進めていきます。						
【関連アクション】 アクション1								

(様式第1号)

指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合(中学校)	目安値	%		57.2	57.9	58.6	59.3	60.0
	実績値		56.5	54.5				
	進捗区分			努力を要する				
	進捗状況の分析	各校で授業改善の意識が高まってきているが、授業のまとめの場面における学力定着の確認に課題が見られます。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	学習内容の習得状況を確認しながら確実に定着するまで指導する仕組みづくりを進める「スパイラルアップ事業」と、授業と連動し自分で課題を見つけて取り組む家庭学習への転換を図る「新たな家庭学習モデル創出事業」を進める中で学力の定着を目指していきます。						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合(小学校)	目安値	%		58.4	58.8	59.2	59.6	60.0
	実績値		58.0	59.7				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	子ども同士の学び合い(グループ学習、討議形式等の参加型の授業)の機会が増え、知識技能を活用する力や課題を探究する力の育成が図られています。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	30人規模学級の良さを生かして、子ども同士や様々な人々との関わりを深めながら、学んだり、実験や実習、体験的な活動など体を使って学んだりすることの充実を図っていきます。						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合(中学校)	目安値	%		54.2	54.7	55.1	55.6	56.0
	実績値		53.8	52.3				
	進捗区分			努力を要する				
	進捗状況の分析	授業の中で、身に付けた知識技能を生かした話し合いや課題を探究していく場面が少ない状況が見られます。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	学力向上ミーティング等で授業改善の具体例を示したり、知識・技能を活用する問題(チャレンジ問題)を拡充させて学校現場に提供し、活用が進むための取組を強化していきます。						
【関連アクション】 アクション1								
指標名	年度	単位	基準値 (H22)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点(全国順位)	目安値	位		29	27	25	22	19
	実績値		31	29				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	H25の実績値は目安値を達成したことから、目標達成に向け順調に推移しています。なお、中学生女子の体力合計点は前年度より向上したものの全国平均を下回っていることから重点的な対策が必要です。						
【目標設定理由】 全国上位の水準を目標に設定	今後の取組	近年減少傾向にある中学生女子の運動部活動加入率が向上するような環境づくりを進めるほか、特に課題のある種目について、授業や1校1運動の中に腹筋を使う運動や持久走を取り入れる工夫を進めます。また、幼児期からの運動習慣の定着を支援するための運動プログラムを新たに開発し、保育士、保護者、地域の指導者等へ各種「運動遊び」を普及していきます。						
【関連アクション】 アクション1								

(様式第1号)

指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
信州型コミュニティスクールの実施割合	目安値	%		3.0	30.0	50.0	75.0	100.0
	実績値		0.0 (21.0)	13.6				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	モデル校の設置や教職員、コーディネーターに対する研修、市町村教育委員会、学校への訪問・啓発活動等を行った結果、順調に推移しています。 ※計画策定後、信州型コミュニティスクールの要件として学校評価の実施を追加したため、基準値を見直しました。						
【目標設定理由】 全ての公立小・中学校で体制ができて いることを目標に設定	今後の取組	今後、モデル市町村における多様なモデルの構築を支援し、その普及を図るとともに、関係者の理解を深めるため、教職員・コーディネーター・ボランティア等の研修の充実、市町村教育委員会や学校への直接訪問、様々な団体等への啓発活動を行い、信州型コミュニティスクールの普及を進めます。						
【関連アクション】 アクション2								
指標名	年度	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
就業体験活動を実施した生徒数の割合(高校生)	目安値	%		60.0	70.0	80.0	90.0	100.0
	実績値		52.2	60.4				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	「すぐだせ修行」や大学等の上級学校見学会の中で職業観や勤労観の育成を推進する企画に取り組んでおり、順調に推移しています。						
【目標設定理由】 全ての生徒が実施することを目標に設定	今後の取組	働くことの意義や勤労観を養い、学ぶことの大切さを理解するとともに、将来を見通した生活ができるようにすることをさらに指導していくとともに、すべての高校生が卒業までに就業体験活動を行うことを目標に推進していきます。						
【関連アクション】 アクション3								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
英語コミュニケーション能力水準(英語検定3級レベル(中学生))	目安値	%		26.0	29.0	33.0	36.0	40.0
	実績値		19.8	28.2				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	生徒が英語に触れる機会を増やし、言語活動の充実をめざした授業を通して、コミュニケーション能力の育成を図ってきており、順調に推移しています。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	今後も、授業において、教師・生徒がともに英語を使う機会を増やし、言語活動の充実を通じて、言語材料の定着とともに、コミュニケーション能力の基礎を育成していきます。						
【関連アクション】 アクション4								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
英語コミュニケーション能力水準(英語検定準2級レベル(高校生))	目安値	%		33.0	35.0	36.0	38.0	40.0
	実績値		30.0	34.4				
	進捗区分			順調				
	進捗状況の分析	各高等学校で生徒が英語を使う活動を多く取り入れるなど、授業改善がすすんでおり、順調に推移しています。						
【目標設定理由】 現状を上回る数値を目標に設定	今後の取組	今後は担当教員の研修をさらに充実させ、生徒が授業で英語を使う機会を増やす等の授業改善に取り組みます。						
【関連アクション】 アクション4								

**アクション  
1**

**(学力・体力の向上と多様な学習機会の提供)**

子どもたちの学力や体力を向上させるとともに、一人ひとりの個性に合った多様な学習機会を提供します。

**【アクションの進捗状況】**

中学校3学年まで30人規模学級を拡大し、小中学校全学年で少人数学級等によるきめ細かな指導を行う体制を整備しました。

学力向上のためのPDCAサイクルづくりなど、学校における授業改善の取組を支援するとともに、全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに学力向上に結び付く取組をまとめたリーフレットを作成し、全ての教職員と保護者に配付しました。

「長野県版運動プログラム」普及のため、教職員や地域の指導者を対象とした出前講座や、児童生徒を対象とした実技講習会を実施しました。

「発達支援を専門的に行う学びの場」の開設・運営者を公募し、平成26年4月に「長野翔和学園」が開校しました。

少子・人口減少社会に対応した新たな学校づくりについて市町村と共に検討し、平成26年4月に「少子・人口減少社会に対応した活力ある学校環境のあり方及び支援方策」を策定しました。

**主な成果**

● **小・中学校30人規模学級の全学年実施**

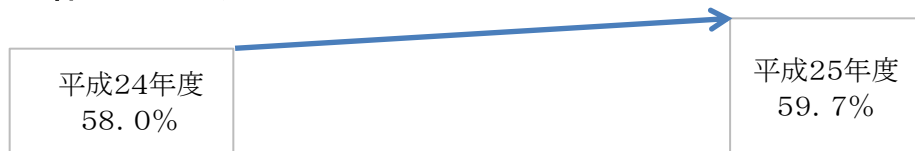
国に先駆けて小・中学校に30人規模(35人以下)学級を導入

◇23年4月：中学1年生へ導入

◇24年4月：中学2年生へ拡大 ⇒ ◇25年4月：中学3年生へ拡大



● **「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童の割合が増加(小学校)**



● **「長野県版運動プログラム」普及のための講座等を実施**

キッズ運動遊び どこでもゼミナール(指導者向け出前講座)・・・県内10会場で開催  
体づくり運動実技指導講習会(児童生徒向け実技講習会)・・・県内25会場で開催

● **「長野翔和学園」が開校**

県が公募により誘致を行った発達障がいのある若者の教育を専門的に行う学びの場として、26年4月に長野市に開校



● **発達障がいサポート・マネージャーの配置**

発達障がい者支援の知識及び経験を有した「発達障がいサポート・マネージャー」を養成

【H25年度目標】4圏域に配置 → 【成果】4圏域(上小、上伊那、松本、長野)に配置

○H26年度8圏域に配置

(佐久、上小、諏訪、上伊那、松本、大北、長野、北信)

○H27年度までに県内10圏域すべてに配置予定



長野県発達障がい者支援シンボルマーク  
「結(ゆい)」

**アクション  
2**

**(地域に開かれた信頼される学校づくり)**

コミュニティスクールなど、家庭や地域が小・中学校を支える仕組みを構築し、地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます。

**【アクションの進捗状況】**

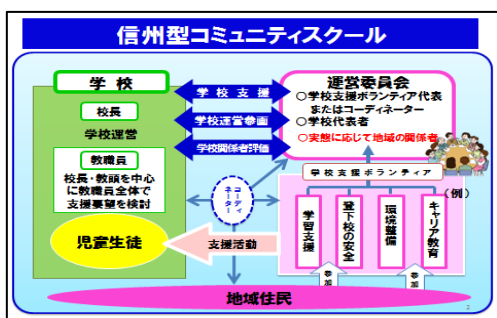
学校運営参画、学校支援、学校評価機能を一体的に実施する「信州型コミュニティスクール」を構築・普及するため、モデル校の設置や教職員、コーディネーターに対する研修、市町村教育委員会、学校への訪問・啓発活動等を実施しました。

「信州教育の信頼回復に向けた行動計画」を策定し、研修体系の作成や評価制度改善に向けた検討など、行動計画に沿った取組を着実に推進しました。

**主な成果**

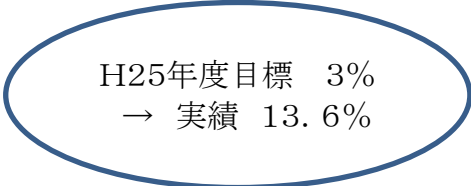
**●信州型コミュニティスクールを推進**

モデル校の設置や教職員等研修、市町村・学校訪問を行い、普及を促進



【県内小・中学校で

信州型コミュニティスクールに取り組む学校】



**●信州教育の信頼回復に向けた取組**

- ・「信州教育の信頼回復に向けた行動計画」(全46項目)を策定(25年7月)
- ・全46項目に着手済、うち28項目実施済(26年4月)

**アクション  
3**

**(農林業体験など体験活動の推進)**

子どもたちの社会性や自主性を育むため、小・中・高等学校で農林業体験、福祉体験、就業体験など様々な体験活動を推進します。

**【アクションの進捗状況】**

産学官の諸機関、団体が参加する「長野県キャリア教育支援センター」を活用して、地域社会や産業界が学校を支援する仕組みの構築を進め、幼保・小・中・高一貫した体系的なキャリア教育を推進しました。

異年齢の児童生徒たちが共同して生活しながら通学する通学合宿について、手引きの作成、市町村担当者等(約80名)を対象にした説明会を行い、次年度に着実に実施していく体制を整えました。

**主な成果**

**●就業体験活動を実施した生徒数の割合(高校生)**

平成24年度 → 平成25年度  
52.2% → 60.4%

(目標値: 60.0%)

## ●通学合宿の支援

通学合宿の実施マニュアルや事例集を盛り込んだ「通学合宿手引き」を作成し、さらに県内2カ所で市町村担当者向けの説明会を開催  
 ⇒ これにより、平成26年度実施予定回数が増加  
 14市町村、延べ23回 → 21市町村、延べ39回  
 (23年度) (26年度予定)



### アクション 4

(情報活用能力、英語コミュニケーション能力の向上)

時代の変化に対応できる人材を育成するため、子どもたちの情報活用能力や英語コミュニケーション能力の向上に取り組みます。

#### 【アクションの進捗状況】

I C T を効果的に活用して生徒の学力や情報活用能力の向上を図るため、I C T 活用に関する教員研修を充実させるとともに、県立高校における通信基盤の整備や特別支援学校へのタブレットP C の配置を行いました。

優れた英語力・指導力を持ち地域の中核となる教員を養成するための研修を実施するとともに、各高校において英語力の学習到達目標を「C a n - D o リスト」の形で設定・活用する取組を推進するため、モデルとなる「長野県高等学校C a n - D o リスト」を作成しました。

#### 主な成果

### ●タブレット端末を利用した特別支援教育の実施

タブレット端末を設置し、障がいの状況に応じた学習に活用  
 端末設置数 10台(24年度) → 131台(25年度)



### ●英語コミュニケーション能力水準

中学生：英語検定3級レベル  
 平成23年度 → 平成25年度  
 19.8% → 28.2%  
 (目標値：26.0%)

高校生：英語検定準2級レベル  
 平成23年度 → 平成25年度  
 30.0% → 34.4%  
 (目標値：33.0%)

### アクション 5

(高等教育全体の振興)

地域社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するため、県内の高等教育全体を振興するとともに、県立4年制大学を設置します。

#### 【アクションの進捗状況】

産業界、大学、行政による人材育成に関する議論の場として「長野県産学官協働人材育成円卓会議」を設置し、平成25年9月に初会合を開催するとともに、実務者によるワーキンググループによりアクションプランのコンセプトや具体的なアクションの内容について検討しました。

平成25年6月に「新県立大学基本構想」を策定し、関係団体に周知を図るとともに、県立大学の設立の趣旨や具体化について、県民、県内大学等関係者と意見交換を実施しました。これらを踏まえて、基本構想の具体化に向け、教育課程・教員選考専門部会、施設整備専門部会を開催して具体化の検討を実施し、平成26年2月に「新県立大学施設整備基本方針」を策定し、あわせて開学目標(平成30年4月)を決定しました。

主な成果

●高等教育振興のための組織整備

- ・高等教育統括担当課の設置の検討 ⇒ 私学・高等教育課の設置(26年4月)
- ・長野県産学官協働人材育成円卓会議の設置、開催(25年9月)

●新たな県立4年制大学の設置準備

- ・新県立大学基本構想の策定(25年6月)
- ・新県立大学施設整備基本方針の策定(26年2月)

グローバルな視野を持って、イノベーションを創出し、地域を牽引する人材を育成

◇グローバル時代をたくましく生きる力の育成

- ・英語集中プログラムの積極的導入
- ・海外プログラムの履修義務付け
- ・1年生は全員入寮

◇主体的に課題解決する実践力を育成

- ・実践的な課題探求型授業の実施
- ・企業・自治体と連携したインターンシップの推進

◇勉学の志を全うする仕組みを構築

- ・少人数教育などによる自主的な学びを促進
- ・多様な入学者選抜方法の採用による多様な学生の確保

開学目標 平成30年4月

アクション 6

(生涯にわたる学びの環境整備)

生涯にわたる学びや学び直しができる環境整備を進めます。

【アクションの進捗状況】

生涯学習推進センターでの指導者養成や、県内6市町村の公民館等が連携し、これまで開催が少なかった地域課題をテーマとした講座の開催などにより、学びやすい環境づくりと地域づくりの推進を図りました。

県立長野図書館の利便性向上を図るため、ホームページのリニューアルや、一般社団法人長野県経営支援機構との共催による起業、経営に関する無料の相談会を開催しました。

主な成果

●公民館による地域課題(若者の自立)解決の取組を支援

6市町村の公民館と連携・協力し、若者の自立をテーマとした講座の開催

- 麻績村 : 不登校等の未然防止のための体験活動
- 山形村 : 通学合宿から見える子どもの育ち
- 朝日村 : 親育ちや外国籍家庭への支援
- 上田市 : 地域支援による小中学生の居場所作り
- 松川町 : 高校生のオブジェ制作で考えるまちづくり
- 飯田市 : ニートや引きこもり等の居場所作り

事業成果と地域への波及効果

小学生等

体験活動や異年齢交流により、新しい発想や前向きな考えが引き出された → 『生きる力』が醸成された

高校生

地域取材によるオブジェ制作により、町の将来をじっくり考える機会になった → 『地域課題』に触れた

●県立図書館における情報発信の充実 ~ホームページをリニューアル~

- ・イベント情報(県内の公共図書館を含め)やブログの発信
  - ・子どものページの新設 など
- ⇒ 横断検索(県内公共図書館の蔵書検索)アクセス数: リニューアル前の1.5倍に増加